

暮らしのガイド

令和6年
10月発行

大田区
Ota City



©大田区
大田区公式
PRキャラクター
はねびよん



エリア別特集など

引越し
ガイド

もしもの
ときの
連絡先

相談
ガイド

施設
ガイド

戸籍、
住民票、
マイナンバー
など

マイ
ナンバー

国保、
年金

税金

保健、
衛生

福祉

子ども

暮らし

資源と
ごみ、
リサイクル

住まい、
まちなみ、
環境

防災、
防犯

産業、
仕事

学習、
文化、
余暇、観光

国際交流、
多文化共生、
語

身近な
区政

区内施設
ダイヤル
ガイド

町名別
管轄区域
一覧

さくいん

ハザード
マップ

大田区役所

☎ 5744-1111 (代表)

〒144-8621 大田区蒲田5-13-14

ホームページ [大田区](#)

<https://www.city.ota.tokyo.jp/>

- お近くの医療機関案内
東京都医療機関案内サービス
『ひまわり』 ☎ 5272-0303 [24時間]
聴覚障がい者用 ☎ 5285-8080 [24時間]
外国語による案内 ☎ 5285-8181 [午前9時～午後8時]
(英語・中国語・ハングル・タイ語・スペイン語)
- 救急車を呼んだほうがいいか迷ったら [24時間]
東京消防庁救急相談サービス
『救急相談センター』 #7119 または ☎3212-2323

大田区公式SNS 行政情報等を発信

LINE @otacity

X @city_ota

YouTube 大田区公式チャンネル
City Ota Channel

Unique 大田区ならではの魅力を発信 シティプロモーション

X @Unique_Ota

Facebook otacp.uniqueota

Instagram @unique_ota

大田区防災 ポータル・アプリ

防災情報を確認できます。
ポータルサイト



防災アプリ

大田区防災アプリ

大田区の紹介

大田区は 23 区で最大の面積を持ち、人口約 73 万人の大規模な自治体です。

空の玄関口である羽田空港、高い技術力を誇る多くの町工場、にぎわう商店街、歴史ある文化財に文化や芸術を身近に感じられる施設やイベント、海辺や台地、多摩川などの豊かな自然と、さまざまな魅力にあふれています。

令和6年3月に大田区は新たな基本構想を策定し、2040年ごろの大田区のめざすべき将来像として「心やすらぎ 未来へはばたく 笑顔のまち 大田区」を掲げました。

これまで築いてきた地域のつながりを大切に、暮らす人・働く人・学ぶ人・訪れる人の誰もが、安全で、安心して心穏やかな日々を送れるまちを、そしてこどもから大人まで夢や希望をもち未来を切り拓くことができる活力あるまちを、区民の皆様と力を合わせて築いてまいります。

この冊子は、大田区で生活する皆様の日常生活に関わりの深い区の事務をはじめ、国や都の事務、各種相談窓口や区民施設の利用案内などを掲載しております。この冊子をご活用いただき、皆様の生活にお役立ていただけますようお願いいたします。



令和6年10月 大田区長 鈴木晶雅

区の紋章



区民の皆さんから公募し、1429 点の作品の中から本山芳夫氏の図案をやや修正したものを区の紋章として昭和 27 年に制定しました。

平和のシンボルマーク



大田区は昭和 59 年 8 月 15 日に平和都市宣言を行い、記念行事として、その日に「平和のつどい」を開催しています。(→129 ページ参照)

区の花・クスノキ / 区の花・ウメ / 区の花・ウグイス



成長の早いクスノキは発展の象徴、早春に咲くウメは古くから大田区の地になじみがある花です。またウメの咲く早春を告げる鳥・ウグイスは自然保護のシンボルとして制定しました。

区歌



区民の皆さんから歌詞を公募し、山田耕祐氏の作曲で昭和29年に制定しました。

●区名の由来

大田区の前身である大森・蒲田の両区は、昭和 7 年 10 月に、当時の東京市が隣接する郡町村を合併した際に設置されました。馬込、東調布、池上、入新井、大森の 5 つの町が大森区に、矢口、蒲田、六郷、羽田の 4 つの町が蒲田区になりました。昭和 22 年 3 月 15 日に、当時の大森区と蒲田区が一緒になって誕生したのが大田区です。その際、両方の一字ずつを取って命名されました。

●歴史・沿革

海と川に臨み、武蔵野台地の先端に位置していることから、昔から人が住みやすく、交通の要路でもあったため、区内には大森貝塚、多摩川台古墳群、池上本門寺五重塔など多くの史跡が点在しています。また、水止舞や禰宜（ねぎ）の舞などの伝統芸能も数多く残されています。

江戸期は農漁村で、特に海岸の大森・糎谷・羽田地区では海苔（のり）の養殖が盛んに行われました（昭和 38 年まで存続）。また、東海道の街道筋にあたっていたため、人馬の往来でにぎわいました。

大正期以降、中小工場が進出し、低地部は住宅や工場が密集する商業・工業地域を形成し、京浜工業地帯の一部となっています。台地部は、関東大震災後に住宅化が進み、田園調布、雪谷、久が原など比較的緑の多い住宅地です。臨海部は埋め立て地から成っており、羽田空港をはじめトラックターミナルやコンテナふ頭、大田市場などの物流施設や、工場団地、野鳥公園など都市機能施設が整備されています。

●区の世帯・人口・面積（令和6年8月1日現在）

世帯数…417,539世帯

総人口…739,640人 日本人人口…… 709,077人 外国人人口……… 30,563人

面積…61.86km²

●大田区歌

1 明けわたる 新たな朝よ
田園の みどりも息吹く
あゝ こゝぞ あゝ こゝぞ
さやかなる 多摩の流れに
のせゆくは 自治の歌声
光あり 我らが大田
光あり 我らが大田

2 におい立たつ 火花と汗に
生産の 幸呼ぶところ
あゝ こゝぞ あゝ こゝぞ
のぞみある 日々をつちかい
すこやかに ひらく文化よ
力あり 我らが大田
力あり 我らが大田

3 靑潮に かがやき映えて
天かける つばさの港
あゝ こゝぞ あゝ こゝぞ
いらか波 遠くつらなり
とこしえの 栄えめざして
誇りあり 我らが大田
誇りあり 我らが大田

令和6年10月発行 ■発行／大田区 〒144-8621 大田区蒲田5-13-14 TEL 03-5744-1111 (代表)

本紙に掲載されている情報は、原則令和6年10月1日現在のもので、その後内容に変更が生じる場合もあります。掲載内容が変更される場合には「大田区報」や区のホームページ (<https://www.city.ota.tokyo.jp/>) で随時最新の情報を発信しています。